

あとがき

先日、日本脳神経財団主催で行われた「脳神経外科専門医教育研修会」でくも膜下出血の講義を行ってきた。まず驚いたのが会場の雰囲気であった。会場は300名に及ぶ受講者の熱気で溢れかえっていた。講義の途中会場を見ながら気がついたのであるが、女性の専門医受験者が非常に多い。そういえば、わが大学でも数年に1人は脳神経外科に入局してくるし、脳神経外科学会の地方会などでも演者としてよく見かけている。中部地方のある大学では、教授になった方もおられる。一昔前は開頭や穿頭手術は力があることから、女性医師から脳神経外科は敬遠される傾向にあった。しかし、機器の進歩もあり今は問題とはならないようである。

女性脳神経外科医が活躍できる分野が昔よりは広がったことも後押ししているのだろうか。女性でも比較的取り組みやすいカテーテルや内視鏡を用いた治療が一般化している。また、機能的脳神経外科の分野なども女性に向いているかもしれない。

ただ、女性医師ということによるハンディはまだ相当存在する。特に、妊娠、出産、育児である。そのために脳神経外科に限らずどの領域でも、医師としてのキャリアを中断したり、転科したり、辞めたりする医師が多いと聞く。その中で、男性医師ですら敬遠し出した脳神経外科を専攻し、しかも専門医を取得しようと努力している女性脳神経外科医。こういう女性たちをみんなで応援したいものである。

さて、今月号の特集は「硬膜動静脈瘻」である。硬膜動静脈瘻の疫学・成因、分類と診断、各種治療など内容は盛りだくさんである。血管内治療やガンマナイフ治療などについても内容は充実しており、まさに専門医レベルである。ぜひ、女性脳神経外科専門医の卵のみなさんにも読んでいただきたい。総説では、日常的に診療することが多いことから、「アルツハイマー病に対する新ワクチン療法」に興味深く拝読した。さらなる研究の発展が望まれる。症例報告では「子癇における脳循環動態の経時的変化」が興味深かった。神経画像アトラスでは「軽症頭痛で診断し得た経口避妊薬による静脈洞血栓」が取り上げられているが、ぜひ日常の診療で参考にさせていただきたい。また、Neuro CPCは相変わらず読み応えが十分なものであった。最後に、作田 学先生の連載であるが、いつも楽しく読ませていただいている。

(中込 忠好)

BRAIN and NERVE

(第60巻 第8号)

2008年8月1日(毎月1回1日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5% (配送料実費))

(2008年、年ぎめ予約購読料 34,860 円(配送料弊社負担))

E-mail:bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通(03)3817-5701

(高瀬・山内・山崎)

販売部直通(03)3817-5659・5660

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 (株)アイワード (011)241-9341

広告申込所 (株)丹水社 (03)3561-1323

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- JCLS (株)日本著作権管理システム委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

編集顧問

生 田 房 弘
臺 弘
大 友 英 一
金 澤 一 郎
近藤 喜代太郎
酒 田 英 夫
佐 野 圭 司
島 津 浩
杉 田 秀 夫
高 倉 公 朋
塚 田 裕 三
中 里 洋 一
彦 坂 興 秀
平 山 恵 造
藤 澤 浩四郎
真 柳 佳 昭
萬 年 甫
水 野 美 邦
柳 澤 信 夫

編集委員

石 塚 典 生
糸 山 泰 人
岩 田 誠
内 山 真一郎
梶 龍 兒
川 島 隆 太
河 村 満
高 坂 新 一
作 田 学
辻 省 次
寺 本 明
中 込 忠 好
中 野 今 治
水 澤 英 洋
(五十音順)